

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム おかでら荘		
所在地	山口県周南市大字樋口字京田262番地の1		
電話番号	0833-91-7355	事業所番号	3591500081
法人名	NPO法人 熊毛 清風会		

訪問調査日	平成 21 年 4 月 13 日	評価確定日	平成 21 年 6 月 19 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	11 人	常勤 4 人 非常勤 7 人 (常勤換算 7.4 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 概ね 36,200 円	敷金	無	円
保証金	有 100,000 円	償却の有無	有	
食費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	233 円
その他の費用	月額	15,000 円		
	内訳	光熱水費		

### (4) 利用者の概要 (4月13日現在)

利用者数	9 名	男性 3 名	女性 6 名	
	要介護 1	2	要介護 4	3
	要介護 2	2	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢	平均 84.6 歳	最低 76 歳	最高 93 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 松本医院、小川クリニック、阿部クリニック 歯科 清水歯科医院
-------------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

隣接する小学校の音楽の時間に聞こえてくる歌声を、デッキに出て聴くのを楽しみにしてられます。木造の建物で、リビングのテーブルも木で統一され、木の香に包まれており、落ち着いた雰囲気があり、明るい日差しが差し込むなかで、利用者は穏やかに過ごされています。各居室には、使い慣れた家具や生活用品を持ち込まれ、一人ひとりに合わせた部屋作りがされ、利用者が安心して過ごせるよう支援されています。

### (特徴的な取組等)

職員数を確保され、職員の希望を聞き勤務表を作成し、A～Y勤までの細かな勤務時間に分けることで、子育て支援に対応したり、職員が継続して勤務ができるようにすると共に、利用者や家族の状況の変化や要望に柔軟に対応されています。日中は3名の職員を確保する事で、利用者に寄り添うケアをしておられ、夜間も夜勤者と宿直者を配置されるなど、利用者や家族の安心に繋がっています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

今回が初めての評価です。

### (今回の自己評価の取組状況)

自己評価書の項目について、職員から意見を聞き管理者がまとめた後、再度職員で確認して評価とされています。評価する事で気づきに繋がり、業務の検討や改善に活かされています。

### (運営推進会議の取組状況)

民生委員、自治会長、副会長、自治会班長、市職員、婦人会、家族会代表、利用者、事業所代表、職員等のメンバーで開設後、1度開催されています。事業所の状況報告や緊急時の協力要請などについて話し合われています。

### (家族との連携状況)

毎月、請求書の送付に合わせて行事の写真や利用者が書いたハガキ同封されています。月1回、支払いに訪れた家族に面談し、暮らしぶりや健康状態の報告をしたり、意見や要望を聞かれています。3ヶ月に1回、事業所だよりを発行し送付されています。

### (地域との連携状況)

公民館祭り、盆踊り、敬老会、運動会に参加して地域の人々と交流されています。事業所に気軽に訪問してもらえるよう、地域に声かけし、地域との関わりを深めるよう努めておられます。日々の散歩の時には、地域の人から挨拶や言葉かけがあったり、野菜の差し入れがあるなど交流されています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域の中で地域の人と一緒に住み慣れたまちで生活する」という理念をつくり、地域との関係が深まるように取り組んでいる。	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティング(3ヶ月に1回)のときに理念を確認し、全職員で共有するとともに、日々のケアに活かしている。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	公民館まつり、盆踊り、敬老会、運動会等に利用者も参加して地域の人と交流している。事業所に気軽に訪問してもらえるよう地域に声かけし、地域との関わりが深まるよう努めている。日々の散歩の時には挨拶や言葉かけがあり、野菜の差し入れもある。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価書の項目について職員から意見を聞き、管理者がまとめた後、再度職員で確認して評価としている。評価することで、気づきに繋がり、業務の検討や改善に活かしている。	
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	民生委員(7名)、自治会長、副会長、自治会班長(5名)、見識者(理事、婦人会、家族会代表)、利用者、市職員、事業所代表等のメンバーで構成し、開設後1回だけ14名の参加で開催している。事業所の状況報告や緊急時の協力要請について話し合っているが、その後は開催していない。	・定期的な開催 ・会議記録の検討
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	相談や協力のお願いはしているが、市からの回答が得られていない。運営推進会議への参加も得られていない。	・市との連携の工夫

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、請求書の送付に合わせて、行事の写真や利用者が書いたハガキを同封している。3ヶ月に1回事業所だよりを発行し送付している。月1回、支払いに訪れた家族に面談し、暮らしぶりや健康状態の報告をしている。必要時には電話で連絡している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	月1回の支払いでの訪問日や、面会時に家族から意見や要望を聞いている。相談や苦情受付窓口担当者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定めている。玄関に苦情受付箱を設置している。第三者委員は選任していない。	・第三者委員の選任
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員に勤務の希望を聞き、勤務表を作成している。A～Y勤までの細やかな勤務時間に分けることで、子育て支援に対応したり、利用者や家族の状況の変化や要望に柔軟な対応が出来るようにしている。夜勤者1名、宿直1名を配置したり、職員の急な休みには管理者で対応するなど勤務の調整に努めている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新人職員は、しばらくの間、他の職員と一緒に勤務し、利用者のダメージを防ぐように配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎日のミーティングで管理者が指導しているが、内部研修、外部研修を受ける機会の確保はしていない。今後、研修の機会を検討する予定である。	・内部研修の実施の検討 ・外部研修情報の把握と受講機会の提供
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営者や、職員が個人的に他の施設の見学をしている。地域の同業者と交流する機会を持っていない。山口県宅老所・グループホーム連絡会の加入する予定である。	・同業者との交流や研修会への参加

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用者に自宅に訪問し、本人や家族の話を聞いたり、事業所を見学してもらっている。他の利用者とお茶を飲みながら話をしてもらうなど、徐々に馴染めるように支援している。希望があれば、体験入居も可能である。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>食材の下ごしらえ、掃除、洗濯物を干したり、たたんだり、花や野菜づくりなど職員と利用者が話し合いながら、お互いが協働してできるような関係づくりをしている。人生の先輩として敬意を表し、いろいろな場面で利用者から学ぶことがあり、一方的な介護にならないように配慮している。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>センター方式のシートを利用し、思いや意向の把握に努めている。日々の会話や様子を個人記録に記入して、利用者本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>日々の関わりの中で記録した利用者の思いや、課題、面会時や電話で聞いた家族の意向、受診時に聞いた主治医の意見を参考に職員で話し合い介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>毎月のモニタリング、6ヶ月ごとに計画の見直しを行なっている。状態に変化が生じた場合は、その都度、医師、家族、職員等、必要な関係者で話し合い、新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診時の送迎や付き添い、墓参りや帰宅への送迎等、利用者の希望に合わせて柔軟に支援を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者、家族の希望に合わせかかりつけ医が決まっている。協力医療機関がかかりつけ医となっており、事業所との連携が図られ、適切な医療が受けられるよう支援している。インフルエンザの予防注射は、協力医が事業所を訪れて接種を行なっている。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合については、契約時に説明し、終末期をどのようにするのが良いか家族と話し合っている。状況に応じて主治医や家族と相談し、方針を決め全員で共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉かけに配慮し、管理者が日々の関わりの中で、対応について指導している。個人記録について適切に保管している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは概ね決まっているが、日々、その時々で利用者に合わせて支援をしている。一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼食、夕食の副食は配食を利用している。職員は弁当持参で利用者と一緒に食べながら支援している。月1回、誕生会を開催し、利用者の好みのメニューで昼食づくりをしている。野菜の下ごしらえや後片づけは職員と一緒にしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	冬場は週2回、夏場は週3回と決められ、入浴日以外で希望者には足湯をしている。	・利用者の希望に合わせた回数や時間帯の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	オルガンを弾く人に合わせて歌を歌い、図書館で本を借りたり、ビデオ体操、ボール遊び、お手玉、ぬり絵、川柳、編み物、畑の草取り、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、楽しみごとや、活躍できる場面づくりをし、気ばらしや生きがいに繋がるよう支援している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日の散歩や小学校、公民館、図書館などに出かけている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて管理者が指導し、周知徹底し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアに取り組み、日中玄関に鍵をかけていない。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故、ヒヤリはっと報告書を作成している。対応策については日々の申し送りの中で関係した職員だけで話し合い、全職員での共有はしていない。事故防止のマニュアルがなく知識を学び、事故防止に取り組んでいるとは言えない。	・事故防止マニュアルの作成 ・事故防止のための研修の実施
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	日々のケアの中で話し合いはしているが、応急手当や初期対応の訓練は行っていない。緊急連絡網を作成している。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の避難場所は散歩中に確認している。緊急連絡網での通報訓練を行っていない。地域の人々の協力を得られるよう働きかけているが、避難訓練は未実施である。	・避難訓練の実施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一人ひとりの「薬情報」に基づいて、薬の目的や副作用等を把握し、服薬の支援をしている。必要な情報は主治医にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員の声かけや見守りで一人ひとりに合わせた口腔ケアを行い、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合わせた食事量、水分量が確保できるように支援している。食事量は個人記録に記入している。昼食、夕食は配食で栄養バランスやカロリーの把握ができています。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	勉強会に参加し、職員間で共有して、手洗い、うがいの励行、手すりの消毒などを行い、予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	木造の建物にリビングのテーブルも木で統一され、木の香りがする落ち着いた雰囲気があり、明るい日差しが差し込む中で、利用者は穏やかに過ごされている。リビングからウッドデッキに出ることができ、外の景色や花壇の花を楽しむことができ、季節の花を利用者に生けてもらうなど、季節が感じられるよう配慮している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた。タンス、ベッド、寝具、食器類をそのまま持ち込んで利用し、本人が安心して過ごせるよう工夫している。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム おかでら荘
所在地	山口県周南市大字樋口字京田262番地の1
電話番号	0833-91-7355
開設年月日	平成 20 年 4 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 ( 3 月 20 日現在 )

ユニットの名称				
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 4 名	女性 5 名	
	要介護 1	1	要介護 4	4
	要介護 2	2	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 86.8 歳	最低 76 歳	最高 100 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	事前に職員と話し合い、その後管理者がまとめ、再度確認。
評価確定日	平成 年 月 日

## 【サービスの特徴】

毎日を安心して「自由」に「笑顔」で暮らして頂き、利用者一人一人が中心であり、主役です。  
個人に残された能力を最大限に活かし、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で生活を送ることにより、出来るだけ症状の進行を緩和することが目的です。

- ・玄関の鍵は日中いつも開けておく。
- ・よく話、よく笑い、よく歩き、よく眠る。
- ・「自分のことは自分で」という支援。
- ・地域の中で地域の人と一緒に住み慣れた街で生活する。
- ・常に同じ目線で接する。

スタッフ一同、心を込めて、入居者皆さんにベストの介護よりベターな介護を目指し居心地良いと感じる環境作りの手助けをさせていただいております。

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		認知症があっても、自由に笑顔で生活できるようにする。入居者の方が持っている力を最大限に活用して生活する等、個人を尊重した理念を作っている。
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		必要に応じ、ケア、業務の見直し、改善をしている。
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		玄関入口の掲示板に掲げている。
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえ、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		介護雑誌や研修資料を参考にし全員で共有している。
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		開設時、自治会にてGHの理解をしてもらい、入居時家族に説明し、運営協議会を開催し、地域と関わりをもつようになっている。
2. 地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		散歩時の挨拶や言葉かけをもらい、野菜や家でできたものもいただいている。
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		公民館まつり、盆踊り、敬老会、運動会に参加し、気軽にいつでも見学に来ていただけるように声かけをし、地域からも職員さんを雇用している。
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		地区社会福祉協議会主催の敬老会にNSとして出席。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		評価後に改善点を行い、今後活かしていく。
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	事業所が実施している行事や、日々の日課や現状報告する機会や世間の風評を言ってもらう。	
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護更新手続き、その他事務上で困った際、相談に行く。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		必要に応じて制度の仕組みを話す。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で学んできたことを生かし、共通理解し日々の過ごし方としている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時、説明を行い、面接時にも、必要に応じて行っている。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	はっきりと言いたいことを皆さん言われているので、その都度職員間で検討している。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	請求書と合わせ、行事写真を郵送したり、少しの変化でも電話し、家族と一緒に考えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じて いる(開示情報の整理、開示の実務等)。	いつでも誰でも見られるよう、掲示している。		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに 外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映さ せているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び 職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の 手続きを明確に定めている。	重要事項説明書に明記し、契約時に説明し、玄関に意見箱 を設置している。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提 案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや常時、勤務中に気があれば言ってもらい 検討している。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が できるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保す るための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員には前もって、休日要望を提出してもらい、勤務表作成 に生かしている。		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支 援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に 抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージ を防ぐ配慮をしている。	離職・新規採用があったが、利用者はすぐになじんでくだ さった。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するた めの計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確 保や、働きながらトレーニングしていくことを進めてい る。	個人のレベルに合わせ、専門用語を取り入れ日々の介護日 誌に記入してもらっている。		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配 置することにより、多様な利用者の暮らしに対応して いる。	年齢差があり、日常生活にアドバイス頂いているし、前職場 での経験をふまえ、経験の浅い人の指導をしてもらって いる。		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する 機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取 組みをしている。	待機者を他施設へ紹介や、施設見学をし参考にさせてもらっ ている。		山口県グループホーム連絡会へ加入し他 事業所との交流を大切にしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		研修会へ参加する機会を作り、専門性を高める。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		常に目配りし、新しい発見をした際には個人ファイルに記録し職員に申し送る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の日々の行動を個人ファイルに記入しており、評価を行い介護計画時、参考になっている。	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	医師、ご家族、職員と話し合い、計画を作成している。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録や様子を職員間で話し合い、申し送り帳を活用している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院時、必要時、車椅子専用車両を他事業所より借りている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	小学校や幼稚園が近隣にあり、慰問やボランティアさんの来苑で楽しんでもらい、安心の場としている。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域のボランティアさんの受け入れや介護相談も可能なので、施設を開放している。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	以前の仲間が見学に来たり、電話連絡をして、情報の共有をしている。入所待ちの方を紹介。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		今後、対象者によっては連携を持ちたい。
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		2ヶ月半で退苑者があり、家族に適切な情報を行った。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	不機嫌にならないよう、言葉かけには充分気をつけている。	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	利用者の出来ることをやってもらい、思いを言葉で表現できない方は、仕草により察するよう、日々気をつけている。	
58	<p><b>“できる力”を大切に家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	個人個人できる、洗濯たたみ・献立表記入・生け花をして自由でゆったりと楽しく過ごして頂いている。	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	スケジュール通りではなく、その人にあったペースで行っている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	2ヶ月に1回、美容師さんに来てもらい、清潔保持や女性の場合、化粧もしておられ、胸元にはブローチを飾ったり、自宅より多種類の洋服が届けられている。	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	その方の状態に合わせて食事形態を変え、盛り付け量を考慮し、季節の野菜の下ごしらえや、テーブル拭き、下げ善を手伝ってもらっている。	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	日本酒が好きな方もおられ、時々晩酌や甘党の方はおやつ以外にお菓子を自室で食べてもらっている。	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	排泄パターンを知りトイレ誘導確認をし、ゆっくり排泄希望の方には自室にポータブルトイレを設置している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		入浴日以外、希望者には足湯をし、暖まって就寝いただくようにしたい。
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		事務所で預かっておき、イベント等に出掛けて行く際、使ってもらう事も必要かと思いません。
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		利用者より訴えがあり、緊急時には電話するが、近日中に来られると言う事で、直接電話での会話は行ってない。必要時、葉書は書いてもらっている。
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		どなたでも来所していただき、自室でゆっくりと会話してもらえようお願いしている。
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		現、希望者はないが入居時、希望可能である事は説明している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		救命講習への勉強会へ出席する。
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	緊急連絡網による、通報訓練を行っている。	
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族面会時に話をしている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、利用者の健康チェックを行ってもらい、異常者は報告してもらい早期発見に努めている。	
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬管理を行っており、「お薬情報」を基に効果・注意を共有し手帳の管理を行っている。医療機関によっては、その都度生活習慣病のパンフレットを頂いている。	
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給には気を付け、献立も野菜を多くし、朝テレビ体操を行い、排泄日時を個人ファイルに記入。	
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	食後の歯磨きの声かけ、職員の目の届くところで行ってもらっている。	
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	3食と食間のおやつ時、散歩後の水分補給及び個人に合わせた食事量を提供し、摂取量を記入している。	
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	勉強会に出席し、職員間で共有し、食前の手指消毒を必ず行う。	
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具の消毒や、畑で採れた有機野菜を使い一食ごとに調理し、残れば処分している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前の庭に少しずつ木を植え、玄関には植木鉢を置き、やさしいイメージ作りに取り組んでいる。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	建物内の整理、広場には花を飾り季節感を出している。トイレには換気扇と消臭器を設置し、汚れ等には気をつけている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを置き、テレビを見たり、新聞・雑誌を読んでいる人、会話する人等自由に過ごしてもらっている。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使っていた、タンス・ベッド・寝具・茶碗・コップ・箸等、入所時持参してもらい、今までの生活との変化を最小限に留め安心して過ごせるようにしている。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	エアコン調節に気を配っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	本人の状態に合わせ、ベッド・家具の位置を工夫している。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱、失敗があった際には、職員さんと話し合っている。	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	暖かい日にはデッキに出て日光浴をしたり、小学校の校庭で遊んでいる子供たちを眺めている。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
サービスの成果に関する項目		
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等と <input type="radio"/> 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> たまに <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない